

## 第2回燕市総合教育会々議録

1 日 時 平成27年11月30日(月) 午後3時~

2 開催場所 会議室201

3 出席者の氏名

市長 鈴木 力  
教育委員会  
委員長 斎藤 和夫  
委員長職務代理者 黒川 優子  
委員 山崎 克弥  
委員 中野 信男  
委員 秦 久美子  
教育長 上原 洋一

4 説明のため出席した職員

教育次長	金子 彰男	教育委員会主幹	長谷川 智
学校教育課長	山田 公一	子育て支援課長	宮路 豊行
社会教育課長	堀 克彦	企画財政課副主幹	杉本 俊哉

5 事務局書記

学校教育課 加藤 篤聰 他 3名

6 傍聴人

2名

7 会議に附した事件

協議題

- (1) 教育大綱について
- (2) その他

会議録 別紙のとおり

## 1. 開会宣言 午後 3 時

### 2. 市長挨拶

皆様こんにちは、教育委員の皆さま日頃から燕市の教育行政にご尽力賜りますことこの場をお借りしてお礼申し上げます。

この総合教育会議は、4月に第1回を開催し年間の会議の回数や取り扱う事柄など基本的な方向性について、意見交換させていただきました。その中で、今年は特に教育大綱を作ることが一つの使命としてこの会議の大きな柱となっていますので、それについて意見交換させていただきました。ちょうど燕市が第2次総合計画を策定する年でもあるので、その中でも教育に関する一つずつ検討を進める中で、その柱を教育大綱として位置付け、それに基づいて教育委員会と事務局の方で具体的なものを実現するため具体的な事業施策というふうにブレイクダウンしていくことで進めてきました。燕市総合計画は中間的な取りまとめができ、今度の議会に報告する状況になりました。その状況を踏まえ教育大綱の素案をまとめることができたので、今日はそのことについて意見交換をさせていただきたいと思います。市長と教育委員会とのいい関係の中で、燕市の教育、子ども達の育成をどうしていくかがこの会議の趣旨でありますので、形式ばらずに議論ができる場になることをお願いし開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

### 3. 協議題

#### 教育大綱について

##### ○学校教育課長（山田 公一）が事務局案を説明

前回の会議では、教育大綱は継続審議となっていました。燕市総合計画の審議がある程度進みましたので、今回教育大綱素案を提示させていただきます。燕市総合計画が審議中でありますので、基本的な考え方、大綱構成などについてご意見をいただきたいと考えています。

##### ○市長（鈴木 力）

大綱は、一般的には目標を設けるべきと思っています。他の市町村で出来ているものを見ると紙1枚のものもあったりしている。その中で「教育立市宣言」で掲げているものが大きな方向性を示していますので、それを実現することが燕市の教育である。基本目標を宣言に掲げている3項目としましたが皆様いかがですか。

##### ○中野 信男委員

基本的にはそうあるべきだと思いますが、宣言が時間とともに若干の修正が必要かどうか定期的な確認が必要ではないか。今の段階ではこれでいいと思う。

○市長（鈴木 力）

平成 20 年の宣言の時に明確に書かれていなくて、燕市の教育に位置付けているグローバル社会の対応は宣言時には出ていない。最近では、インターネット一つで全世界の情報が集まる時代で世界と個人が商売ができる。その辺は時代に合わせ、教育の中に取り込む必要がある。Jack&Betty プロジェクトなど、宣言そのものを直す必要も将来出てくるかもしれないが、宣言は生かすが具体的な施策基本方針の中で時代に合わせ修正していくことはできる。今現在宣言を直す必要はなく、これで十分カバーできると思っている。

○中野 信男委員

一旦確認を行うことが必要だと思います。

○市長（鈴木 力）

教育立志宣言を何年か後に、10 年後とかに直すこともある。新教育立志宣言、第 2 次教育立志宣言、絶対に直せないものではない。時代に応じ修正していくものです。現時点で作る教育大綱の基本目標は、平成 20 年の目標で問題ないと思います。基本方針、施策はどうでしょうか。

○中野 信男委員

第 2 次燕市総合計画は、教育委員会の考え方と違っている場合はどうなのか。

○市長（鈴木 力）

燕市総合計画のものをそのまま使うのであればこの会議は必要ない。市長部局を事務局とした燕市総合計画の策定会議が進んでいる。市民の皆様やいろんな各界の委員さんの意見を聞きながら作っている。ある程度その意見を取りまとめた案ができましたので、教育の専門家である皆さんの意見をこの段階で聞いて、市長が最終的に判断し燕市総合計画に取り入れるため、市長部局が気づいていないことや時代の変化など意見を聞き、燕市総合計画にフィードバックしたいと思っている。

もう一度全文を読み上げてください。

○学校教育課長（山田 公一）教育大綱素案全文を説明

○斎藤 和夫委員長

説明いただいた内容について、すべて含んでいますので教育大綱の基本方針及び施策はこれでいいと思います。これをどのように施策として実現していくかが実際に出てきたときに今後協議していく、これでよろしいと考えています。

○中野 信男委員

基本方針・施策は納得しています。何処でも基本的には使える 100 点満点であるが、この中で燕が特色を出していくにはここでないと打ち出せないと思いますが、燕市の特色を打ち出せるかどうか、市長はどう考えますか。

○市長（鈴木 力）

このような大綱の中では特色を出しにくい。学ぶ意欲を高め豊かな学力育成する、豊かな人間性を実現するときに、燕としては長善館という過去の歴史の資産・私塾があつてその精神を生かして教育をやりましょう。それが長善館学習塾であつたり、海外であれば Jack&Betty であつたり、個別な事業になると特色は出せるが、そもそも論になるとあまり出しにくい、逆に強く出し過ぎるとそればっかりになる感じがある。

○中野 信男委員

逆に特色を出そうとすると基本的に、個々に降ろしたところでは出せが、ある程度上のところで出したい。こうした場合、市長さんの考えを取り入れた特色はどこで出せるでしょう。そうでないと場当たり的になりそうな感じがします。

○市長（鈴木 力）

入れるとしたら文章のリード文でどうか、個別の柱にはあまり書きにくい。「燕の文化伝統産業を生かした」のところを「燕の文化伝統産業」とは何だというところまでブレイクダウンしてみると特色が見えてくる「長善館」、「良寛」という言葉が入つてくれれば、そこまで表現するかどうか。

○上原 洋一教育長

市長が指摘したところ 1 (1) リード文の 2 行目にそういう特色ある教育推進を入れたので、以下①からの施策が全てそれに貫かれたものになって行くべきだろうと考えていた。もし特色あると言葉を入れようとすると多くのところにそれを入れなければならない。それを入れないとそこは燕らしいところがないのかと読めてしまう、そこが苦しいところもある。

○市長（鈴木 力）

「育むため燕の文化伝統など生かした」を「育むため」と「燕市の文化伝統」の間に「〇〇など〇〇はじめ燕市の文化」具体的にイメージできるように例示で入れると、その辺が際立つのではないか。

○中野 信男委員

総合計画は何年間ですか。

○市長（鈴木 力）

7年間

○中野 信男委員

ここに入れろという意味ではなく、特色はどこかで入れないと平凡な施策になる。

○市長（鈴木 力）

次に作る学校教育基本計画では、より具体的な燕らしいものが出来上がってくることになる。個別の計画に入れば特色が出しやすい。大きな話になるとなかなか燕の特色を生かしたという表現になってしまいます。

○黒川 優子委員

燕の子供たちは、何か課題を与えられると一生懸命やるが、今一どこか引いているように見える。良き学習者を育てる、先生から離れても自分で目標を持って歩いていけるような子ども育てていくのに、どの文章を読んでも入っているように感じるが、自信をもって、人として感情を高めてやれるものが入っているものがほしい。きちんと行儀のいい子供がいっぱい出てきても、型破りでもいいので俺はやるんだ。そういう子供が出てくる、それがどこかにあってもいいのでは。

○市長（鈴木 力）

「生きる力のみなぎる」この趣旨を生かした表現がほしいのではないか。

○山崎 克弥委員

非常によくできている。これで二重丸でないかと思います。色々意見が出ましたが、その通りだと思うが、教育大綱の中に盛り込むかどうかについては、もう一ランク下のところで出していけばいいと思います。実際の施策には、こういったことが分かるように盛り込んで活動指針を作成し趣旨が分かるようにするべき。あまり大綱に言葉を入れるとそれが非常に際立ってしまう。これは非常によくまとまっています。

○市長（鈴木 力）

形的には市長が教育大綱を作り、この大綱で具体化を図ってくださいと教育委員会へお願いする。大綱を受け取った皆さんが、具体的な教育施策として教育基本計画などを作りながらそれを具体化する。むしろ私が作った大きな方向性受け止めた皆さんに、今言わされたことをどうするか事業の中に盛り込んでいくことが必要です。多少は修正出来るところは修正し、あまり細かいところは教育大綱の趣旨から外れるので限界があるところ、ご容赦ください。

○中野 信男委員

その通りですが、現状を色々反省してみると教育委員会などこういった会議はルーチンワーク的な流れに流される方向にある。変わったことは取り入れにくいので仕組みを作っていくかなければならない。皆さん色々と理想を持っていてるが、それがなかなか会議の中や運営で取り入れにくい、文科省が言うように教育委員の事務方がやるのに色々と異議を唱えてそれを反映させてくださいと言われるが、何かの仕組みをやっていかないとマンネリ化してしまう。

○市長（鈴木 力）

総合教育会議は、今年は教育大綱を作ることが大きな命題ですが、来年度からは大綱に基づき計画を作り、実際に燕市の教育が行われていくのか、定例の教育委員会とは別に、この場で年2回の総合教育会議を開き議論ができるのではないか。

○秦 久美子委員

この教育大綱はとてもいいと思いました。1（1）の文章の中「グローバル社会を生き抜く力」これが全てだと思います。リーダーシップのある上の方にいる子どもも下の方にいる子ども達、それぞれ置かれた場所で生き抜く力これが一番大事だと思います。どんな場所にいても最終的には生き抜く力をどう育てるかが子ども達には一番大事だと思います。何時までも親が生きているわけでないので、子ども達が自分の力できちんと生きていけることが一番、どの立場にいる子供でも、みんな大人になりそれなりの力で生き抜いて行かないと困ります。このグローバル社会を生き抜く力、これで私は十分だと思いました。

○市長（鈴木 力）

黒川委員さんが言われた生きる力のみなぎる④のところに力強さがほしい。⑥もどのような学力だとか、どのようなキャリア教育だとか、どのような魅力を作っていくか、とあるが⑥どういった教育環境を作るのか少し足りない。単なる教育環境なのか、どんな教育環境を整備するのか、安心安全な教育環境なのか、自ら主体的に何かしようとしたときに何時でも実現できる教育環境なのか、何かどんな教育環境なのか欠けている。この辺はどういうイメージですか。安心安全は絶対、建物の耐震、通学の問題かもしれない。

○上原 洋一教育長

③キャリア教育の部分も、自らの生き方を考えるだけでいいのか、もっと進路を切り開く、夢や希望を実現していく、前向きの方が生きる力がみなぎっていることの表現として検討し直した方がいいのかと思っています。燕らしい子ども達を育んでいくと通じるように、素案の修正をする。

○中野 信男委員

個々の①・・・の部分もう一度再考していただきたい。外国語教育の推進の部分もう少し説明があるといいのではないか。異文化を理解など言葉だけでなく入れていただきたい。そうすると我々が求めるものに近づく。

○市長（鈴木 力）

2 (1) ③「子どもの体力向上サポート事業」ここだけ事業となっている、他は事業を落とし込んでいない。

教育委員さんが言われる趣旨は発言の中で理解できました。それを踏まえ第2次燕市総合計画にフィードバックする。この段階で教育委員さんの意見を聞かれたことは意義がある。改めて教育の部分を抜き出してじっくり見るといろんなことに気付いた。この方向で修正してよろしいでしょうか。

○学校教育課長（山田 公一）

教育大綱は、今の内容で修正して、次回総合教育会議のスケジュールは、2月の第2次燕市総合計画確定後、臨時総合教育会議を開催したい。

○市長（鈴木 力）

確定した結果を伝えるのか、意見を踏まえて、第2次燕市総合計画に反映し、さらにパブリックコメントがあり、最終的にこの形になりそうだという段階でお話しすることも一つのやり方。

教育大綱について、総合教育会議でなく定例教育委員会の中で説明も可能、会議の形式はこだわらない。

○教育次長（金子 彰男）

定例教育委員会後、市長に入っていただき総合教育会議を開催することもできますので、日程調整や状況を確認し次回の開催を計画します。

閉 会 午後3時50分